

採用年度	平成 26 年度
お名前	石田 紗恵子
派遣期間	平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 2 月 4 日
領域/分科/細目	医歯薬学/ゲノム科学/ゲノム医科学
派遣国	フランス
受入機関名	French National Institute of Health and Medical Research
受入機関部局名	Brain and Spine Institute
研究概要	てんかんは、人口の約 1%に生じる頻度の高い神経疾患であり、全体の約 30%は抗てんかん薬が効かない難治性である。私は受け入れ研究室で新規家族性てんかん原因遺伝子として DEPDC5 を同定した。DEPDC5 の変異は高頻度で様々な焦点性てんかん家系から発見され、DEPDC5 がてんかん発症に大きな影響力を持つことが示唆された。派遣期間中は、DEPDC5 の詳細な機能解析をノックアウトラットを作製して行った。
派遣前の準備についてのアドバイス	派遣にあたり研究者ビザを取得した。取得には受け入れ機関に準備してもらわないといけない書類があるが、全体的に手続きに時間がかかり、特に休暇時期は大幅に処理が遅れる傾向にあった。また、重要な書類を紛失される事態も発生し、大変苦労した。社会保険の加入などに必要な書類も一貫しておらず、担当機関や担当者によって要求される書類が異なるということもあった。また、英語の書類では通用せず、フランス語の法定翻訳が必要になる場面もあった。必要だと予測される書類は受け入れ研究者と密に連絡し、各自でも調べながら、不備の無いように出来る限り日本で揃え、コピーも予め何部か準備してから渡航する方がよい。また、相手任せにせず、自ら積極的に状況の把握に努め、場合によっては交渉する姿勢がとても重要である。
派遣中に問題になりうることについてのアドバイス	近年、欧州の社会情勢は急激に緊張している。渡航後は、必ず大使館に在留届けを提出し、有事の際は情報を得られるようにしておく必要がある。派遣期間中は、滞在地のパリで 2 度テロが発生したが、大使館からメールにて必要な情報、注意勧告を受け取ることができた。また、自身でも情報収集に努めて危険なエリアには近づかないようにし、有事の際にはどのように行動したら良いかも知っておくことが大切である。よく言われることだが、日本で生活するのと同じ感覚で行動せず、自分の身の安全に十分に注意を払いながら過ごすべきである。また、何かトラブルがあった際は、遠慮せず周囲に丁寧に説明し、助けを求めることが重要である。
派遣先での生活の様子	滞在地がパリだったので、「国際大学都市」という様々な国からの留学生・研究者のための学生寮群を利用することができた。派遣中は、その中の「日本館」という寮に滞在していた。寮では、他の留学中の日本人や、世界中から留学してきた学生と交流しながら生活する良い機会を得た。パリは、アフリカ、アラブ、アジア系などの移民が多く、様々な国の人たちと、異なる生活習慣の中、同じ市民として生活していくのは、とても刺激的だった。移民が多いため、色々な食材が容易に手に入り、食生活も多彩で、不便はなかった。
海外特別研究員に採用されて良かったこと	海外特別研究員に採用され、安定したサポート環境の下、落ち着いて研究を遂行することができた。また、採用されていることで、他の研究者から信頼を得ることも出来、研究活動を円滑に進めることができた。海外で、日本とは異なる研究姿勢・思考・リズムに直に触れながら生活することで、自身の視野を広め、成長することができたと感じている。また、子育てをしながらも第一線で活躍する研究者に多く出会い、これから研究生活を進めていく上でも良い刺激を得た。